

第1回第六次富士市総合計画審議会 議事録

令和2年2月4日(火) 午後6時30分～

富士市役所本庁舎10階 全員協議会室

【次第6 第六次富士市総合計画の策定】

深川委員 財政フレームについていつ提示されるのか。固定資産税や土地の値段も上がることはないだろうし、その辺を加味した形の予測をなるべく早く教えていただきたい。

事務局 財政の予測ということで、お手元の冊子の前半に財政フレームとして出ているものがある。こちらについては基本計画の総論という分野でお示ししたいと思っている。具体的には、4月下旬ぐらいには基本計画の諮問という予定で考えているため、その段階で皆様にご説明させていただきたいと考えている。

清委員 分科会の5月以降の日程が全体として未定となっているが、5月頃は皆さん総会等いろんな会合が重なると思うので心配。いつ頃決まるかだけでも教えていただけるとありがたい。

事務局 皆さん色々な団体で役職についてご多忙の中、分科会ということで短期間にお集まりいただく形になり、どちらの分科会に属していただくことになるかということもあるが、次回審議会3/24以降の日程は、4月に入ってからになってしまうかもしれないが、できるだけ早い段階で決定したいと考えている。

他にはよろしいでしょうか。

(質疑なし)

それでは、次の議題に移る。

【次第7 基本構想案についての質疑】

議長 説明を受けて、ご質問やご意見等をいただきたい。

深川委員 網羅的でバラエティに富んでいる。P17の「障害」について、害虫の害の字が使われており法律の条文上は今でもこうなっているが、国会や中央省庁ではひらがなを使っている。最終的にレポートになるのであればそういった部分にも配慮した方が良いのではないかと。

事務局 ご指摘の点については、各所と調整しながら、諸々他の計画にも影響がある所でもあるので、検討させていただき。

田宮委員 具体的なことではないかもしれないが、私自身がSDGsの推進について取組を進めているので、その点について意見を述べさせていただきたい。全体的にSDGsは市だけでなくもう少しグローバルな視点で、世界的に貢献できる富士市ということを出した方が良いのではないかと印象を持った。富士市というと紙のまちというイメージがあるが、公害を乗り越えて今のまちの形があるので、製紙というものについてもう一度見直す。日本製紙さんや王子製紙さんが特許を持っている、CNFという石油由来ではなく植物由

来の製品を作り出せるような技術が開発されているので、そういったものをもっと生かして考えていただけると良いと思う。特に、7つの基本目標の「活力を創り高めるまち」に「既存産業の活性化支援や産学官の連携による新産業の創出を図る」と書かれているが、具体的に既存産業をいかに生かしていくのか、また、環境に配慮した産業に展開していくことで、さらに世界へ発信していくよう力を入れていくと良いのではと感じた。また、産学官の連携ということで、今後まだまだ不透明な部分ではあるが、静岡大学でも市と連携を図りながら進めていくことが可能である。

議長 非常に重要な視点であり、富士市が今後世界の環境に貢献できる分野でもあるので勘案していただければ。

海野委員 SDGsの話と重なる部分であるが、P17,18の「SDGsの目標達成に向けた取組を進めていきます」ということであれば、「まもる、はぐぐむ、ささえる、たもつ、つくる、つなぐ、つづく」のそれぞれが、SDGsがうたっている17項目のどこに当てはまるのかを明記していただきたい。また、P20「様々な社会課題の解決に繋がるIoT、ロボット、人工知能(AI)など新技術の導入や活用促進を図っていきます」という部分も、以降に続く「～まち」に対して新技術をどのように導入していくのかということがイメージできるものがあると良いと感じた。

議長 SDGsとの関係がよく分かるようにした方が良い。また新技術も非常に大事な視点で、まさに変わりつつある部分なのでしっかりと取り組んでいただきたい。

田宮委員 SDGsのアイコンを入れていくということだが、非常に危険なこと。どれかがどれかに対応するではなく、アイコンを使用していくのであれば、どれもが繋がっているというイメージで考えた方が良い。例えば、「まもる」について、台風や豪雨などはもっと色々なことと繋がってくるため、ひとつには限定できない。入れていただくからには非常に慎重に入れていただけると良いと思うし、入れる過程の中で色々なことを議論して考えていくことが、もしかしたら富士市の中でSDGsを打ち出していく深まりにも繋がっていくと思う。

議長 確かにSDGsの目標は17あり非常に幅も広くて複雑であり、うまく整理できるかということがある。ご意見を参考に慎重に議論していただきたい。

水野委員 初めて総合計画の審議委員になりよく分かっていない部分もあるので基本的な質問で申し訳ないがお聞きする。P19「富士山とともに輝く未来を拓くまち 富士」という「本市のめざす都市像」は、今後審議を続けていく中で変わっていく可能性はあるのか。あまりに抽象的すぎるため、個人的には変えた方が良いと考えている。それを具現化していくのが他の言葉だとは思いますが、小さな子どもから高齢者、富士市に住む外国人の方までよく分かるよう

議	長	<p>に、一番の目標はもっと具体的で、実現しやすいものにした方が良いのではないか。</p> <p>都市像は総合計画の中では非常に重要な部分。文言については様々な議論があったと思うが、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事	務	<p>市民意見も参考・勘案しながら導き出したものであり、まず、新たな時代が始まるとともに、「持続可能」のようなキーワードや諸課題も色々ある中で、今後解決にあたっていく気概のようなものを表現した。様々なご意見をいただく中で、まず、富士山という象徴的なものを見せたかった。これまでの総合計画でも使ってきた富士山の文言を踏襲しながら、新時代にあって未来志向の「めざす都市像」を提示したかった。市民意見や庁内の検討を経て示している。ご質問の、変えることがあるのかということについて、ご意見として承り検討するが、基本的には皆さんの思いを抽象的にせざるを得ない部分もあり、ここから具体的な基本目標や施策を打ち出し、実際に行っていくものを掲げていく。広く、富士山や未来につながるまち、十年後には未来が開けていると思ってもらえるようなまちにしたいという思いで、「未来」や「拓く」という言葉を使っている。</p>
等	委	<p>員</p> <p>私は石川先生と同じく九州出身で、富士市に在任して8年になり気付いたことだが、富士山のことを1億2千万人の日本国民はほとんど知らない。自分も毎週のように新幹線や飛行機で富士山を見ているが、富士市に降りて見る富士山と全然違う。大淵の方へ行くともっと神々しい。ほとんどの日本国民が見るのはポスター写真の遠くの綺麗な富士山だが、そうではない。生の富士山を知らない人へ富士市がどうアピールするか。良くまとめておられると思う中で申し訳ない言い方をするが、他の都市でも通じるような基本構想ではないかと思う。ここはやっぱり富士であるので、富士山を世界にどう知ってもらえるか。私のように、ほとんどの人は我々が住んで見ている富士山を知らない。それをどうアピールするかということを表に出したらどうか。そうすると、SDGsのような色んなものが付いてくる。先ほど田宮先生がおっしゃった公害はその通りだと思う。私も大学時代、田子の浦のヘドロは大変な問題だったが、今はクリアされており、それをPRすべき。せっかく富士山が世界遺産になったが、75億の世界の人にどうアピールするのかまで伝わってこない。私の会社は5年程前に会社の屋上へライブカメラを設置した。朝5時から夜7時まで5分ごとにライブの富士山が見える。なぜ設置したかということ、我々は葛飾北斎の赤富士を知っているが、赤富士は本当にある。朝焼けや夕焼けは本当に綺麗。でも、それをほとんどの観光客は知らない。赤富士の時間はみんな食事をしている。今回新型コロナウイルスで色々問題になっているが、問題になった地域に静岡県は出てこない。京都から山梨、神奈川、東京と、静岡は通り過ぎている。800万人の中国人が静岡を通過し</p>

ており、それも勿体ない。25万人の市民が世界に情報を発信するという目標を持ったらどうか。みんなそれについて何をしなければならないかが明確になる。

都市像の中に富士山とあるが、大綱の文章内でも富士山をイメージ・PRできるようにするということ。

清 委 員 外の方に向けて富士山を経由して富士市をアピールするということはとても重要であり大変共感するが、自分はPTAの関係をやっていることもあり、富士市に生まれ育ちこれから大人になっていく子ども達が、例えば、東京一極集中という言葉もあるように、富士市から出て行ってしまふことを出来るだけ留めるために、富士市の魅力を子ども達にも発信していきたい。そのためには産業についてもだが、現在、少子化に伴い小中学校の環境は大きく変わっており、小中一貫教育や地域を巻きこんだ適正規模の話もあるため、子どもたちにも訴えることが出来るよう計画にも入れていただきたい。例えば、P18「つなぐ」という部分でも、産業についてはもちろん大切だが、小中連携として小学校と中学校が繋がり、そこから高校にも繋いでいけるような、教育面についても考えていただければと思う。

議 長 富士市内外で富士山をアピールしたい。また、子どもたちも富士山の元で育んでいけるということで参考にしてもらいたい。

鳥 居 委 員 P7第3章時代の展望の中で、課題として「少子高齢化と人口減少」が取り上げられているが、どういうまちづくりをしていくかに関しては、この視点が緩くなってしまっている。一番の課題についてどうしていくのか、という方針をもう少し打ち出した方が良い。まちづくりの視点の方を見ると、やはり特色がないというか、間違っていないと思うが一般的で非常に特色がない、という感じがどうしてもある。先ほどから他の委員の方もお話しされていること。一番の課題についてどうするのかをもう少し強く打ち出した形のまちづくりをしていく必要がある。

議 長 少子高齢化と人口減少の問題については、今後の富士市の基盤となる大切な部分であるので、先ほどからの話しと関連して、どのように富士市をPRし、地域に愛着を持って住み続けてもらったり、または外から人に来てもらったりするのか、ということと組み合わせて、人口減少は大きな流れであるのでなかなか歯止めが掛からないことでもあるが、少しでも和らぐように、というのは非常に重要な視点である。どのように強調していくか検討していただきたい。

芹 澤 委 員 P5第1章計画策定の目的のところ「特に若い世代の希望に応えられる施策について重点的に取り組み」という記載がある中で、その後のアンケート結果(P11)の割合を見ると若い世代の回答が少ないので、この結果だと誰にとって住みやすいまちなのかが分かりづらい。市の方でアンケートの情報

は得られているかもしれないが、こちらの資料だけでは若い世代に対する施策に対してどのように結果が出ているかは読み取りづらいかと感じた。

議長 集計段階で年齢別のクロス集計をされているので、そういった資料を次回にでも出していただけるとよろしいかと思う。若い世代がどう考えているかということも参考にする。

田宮委員 「若い世代」というのは一体どこまでを指すのか。それによっても随分変わってくる。一般的な言い方でも10代なのか20代なのか30代なのか違うし、世代間で住みやすいと評価されている部分も違う。慎重に見ていく必要がある。

議長 誰の目線で、ということはある。今回市の大きな総合計画の中で「若い世代」をどうとらえるか。特に人口の話しでいくと、動く世代というのはだいたい決まっており、20代前半と30代前後だが、その辺りのことを「若い世代」と言うのかどうかも含めて、事務局から現時点で何かお話ししておくことはあるか。

事務局 第六次総合計画における「若い世代」ではなく参考までに、本日お分けした第五次総合計画の後期基本計画の中で、P26に都市活力再生戦略の記載がある。こちらの再生戦略の目標が「若い世代」を増やすことであり、P31に都市活力再生戦略の最上位目標として「若い世代」の人数を令和2年度末人口で62,594人と定めた。この「若い世代」とは15～39歳を想定している。この考え方を第六次総合計画でも承継していくかは決定していないが、第五次総合計画では「若い世代」を15～39歳として設定して、計画を策定した。

井出委員 非常にシンプルな意見だが、P5の「計画策定の目的」の中で「本市が独自性や創造性を発揮し」という表現があるが、「多様性」と「持続可能なまちづくり」というのは非常にポピュラーというか、これからのまちづくりに必要な考え方ではないかと思う。そのような中で出来れば、「多様性」も入れて欲しいと個人的には思っている。

議長 ご意見として伺っておく。

高澤委員 今までの吸い上げのような形で、爆弾発言かもしれないが、だいぶ前に、高校生とその親のアンケートを見たことがある。行政としては学校を卒業したら富士に戻ってきてほしいという意見があるが、親の意見で、「富士に戻って来てどこで仕事をするのか、何も無いのに戻って来いという方が無理ではないか」という意見があった。そういったものを少しでも無くすためには、例えば、産業の面であれば富士はこういう方向へ行きますよ、伸ばしますよ、ということや、井出委員がおっしゃった多様性の話しにも繋がるかもしれないが、六次総の計画なので、そういったことも入ったら良いかなと思う。また、富士山について、九州へ行ってきた後ですごく感じたことで、もう20年近く経つが、当時、富士山が見えるということをもう少しアピールしてビ

ユースポットのようなものを作ったらどうかという話をしたら一笑にされた。富士山はどこからでも見える、どうして作る必要があるのかと言われたが、10年20年経ったら必要だという意見も出てきた。ここに住んでいると富士山が見えるのは当たり前で、「今日富士山見えた？」と聞かれると「ちょっと待って」と思い出さなければならない。外から来た人は、富士山はすごいものだと思っている。例えば、富士宮の白糸の滝も、僕らからすれば大したことないなと思っても、よその人から見たら大したもの。富士川の源平の合戦のような凄い合戦があったが、地元の人でそういったことを覚えている人はほとんどいない。昔からの経緯、歴史的なものを表に出さなくても随所にポツンポツンと入れていくようなことも必要。歴史というものも大事にした方が良い。

議長 若い方に就業の具体的なイメージがつくようにということと、富士山をどうアピールしていくかということのご意見をいただいたので参考にさせていただきたい。

水野委員 この審議会委員になったことに凄く責任を感じている。なぜかと言うと、富士市は住みにくいところだという声が聞こえることをよく知っているから。先ほど第一次から第五次まで計画があったということをお教えいただいたが、この場に参加する上で、今まで計画を立てて上手くいかなかった点や失敗や反省した点のような資料があればぜひ提供していただきたい。計画を立てた以上は立てっ放しということは良くないと思うし、こういう計画を立てたけれど上手くいかなかったとか、途中で修正したというような、反省や失敗の教訓を生かすことが富士市の今後の計画を立てるためにはすごく必要だと考える。意見などではなく、個人的に、失敗の例や計画が上手くいかなかった点については資料として残っていれば提供していただいて、こういうことを考えていく上で参考にしたいと思っている。

議長 五次総の評価など、ご提供いただけるものがあればお願いしたい。

遠藤潤委員 P5 目的の部分について、1段落目、2段落目で背景について書かれていて、3段落目、4段落目で背景に対する本市の取組や課題を伝えているかと思う。先ほどもご意見があったが、人口のことが一番に出ているので、おそらくこれが一番重要なのではないかと思ったが、それに対する取組としては、「重点的に取り組み、成果が見え始めてきた」であるとか「着実に進んでいる」という部分から、解決が進んでいるような印象を受けてしまう文章になっているので、実際はどうなのかということが気になった。また、最後の段落で「このような中、本市が独自性や創造性を発揮し」とあるが、と言いながらSDGsといった一般的なものを指針にして取り組んでおり、もう少し独自性や創造性が最初の議論されている中で垣間見えると、目的に対して中身が伴っているように見えるのではないかと思う。

議	長	P5についても、具体的な書きぶりについての意見があったので、参考にさせていただきたい。	
等	委員	私は紙産業に携わっており、皆さんにさせていただきたいこととして、人を増やすためには産業が必要だが、実際には工場が減ったり、企業が減ったりしている。そうすると、インフラコストが高くなる。皆さんも水道料金が上がったことを肌身で感じていると思うが、企業も、上水道・下水道等、いろいろな意味でのインフラが上がっている。そうした時に計画で、官民でインフラをやりますと言っても、具体的にどうするか。インフラで競争力がなくなっている時にどうするのかということは真剣に考えなければならない。富士山は元々、富士市の歴史にもあったように温暖な気候と豊富な地下水をもって紙産業が始まったが、水が高いということで競争力が無くなってきている。現実を見てどうするのかということを考えていかないと、企業誘致と言っているだけでは企業は来ない。誘致する企業よりも、そこにいる企業をどう維持させるか、競争力を上げさせるかということも、行政としては知っておいていただきたい。そういうことを言う「県の問題です」「国の問題です」という意見が出てくるが、そこをやっぱり一番責任があって差し迫っているのは市なので、その問題意識は市が持っていて欲しい。	
議	長	やはりこの計画自体、先ほどから話題になっている人口というところが非常に大きなベースになるが、人口を維持したり増やしたりするためには雇用が必要、雇用を増やすためには産業が必要、産業を増やすためにはその産業を支えるインフラが必要で、しかも今の高コスト構造ということが非常に繋がっている。また、具体的な検討の中で今のご意見を参考にさせていただきたい。	
土	屋	委員	審議会の進め方について、委員のみなさんから色々な意見が出ているが、行政として消化して次回に出していくのか、それとも、聞いて案文を修正することによって変えるのか、どういう考えを持っているのか。例えば、自分は観光に携わっているが、富士山のビュースポットが無いよと言うと、皆さん無いと思っていらっしゃるかもしれないが、実は富士山百景という形で写真展まで行い、ビュースポットを持っている。そういった、意見のやりとりをしながらより良い計画を作っていくのか、その辺の進め方をお教えいただければと思う。
議	長	本日は第1回目ということもあり、事務局からどんどん返答していただくより、皆さんから意見を伺ったほうが良いと思いい意見をいただいているが、今後どのように進めていくかは非常に重要。今後、特に次回にあたって、どのように進めていくかということについて事務局から方針があれば教えていただきたい。	
事	務	局	先ほど会長から話しがあったように、本日は皆さんから意見を頂戴して、まずは一度お預かりして内部でも検討するというご意見をいただいた。

次回は、修正案という形でもう一度提示し、またご審議いただきながら進めていきたい。必要資料の提供の話もあったので、出来るだけ早い段階でお渡しし、また参考として新たなご意見をいただきたいと思っている。内容としては委員の皆さんと行政、また先ほどご提案のあった委員の皆さん同士でのやりとりも必要ということで、例えば、分科会の中ではより少人数の議論をいただいて、分科会の中で行政に返していただき、また内部で検討していきたいと思っている。まずもって次回については、本日お預かりした意見について深められるように準備したい。

議

長 本日たくさんのご意見をいただいたが、今後その意見をどのように盛り込んでいけるかというところは、具体的な作業の中でご検討いただければと思う。また、実は盛り込んでいるつもりの部分もあるかとは思っているので、その辺りはしっかり説明をしていただいて、我々としてもこのように盛り込まれているのかということで理解をして、より良いものにしていければと思う。

他に意見はあるか

(質疑なし)

それでは、本日の議事は以上で終了となるため、議事を閉めさせていただく。進行を事務局にお返しする。